
The lingering of summer

桜井 桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

The lingering of summer

【Nコード】

N1016U

【作者名】

桜井 桃

【あらすじ】

明日から、待ちに待った夏休み。
珠紀が突然、海へ行こうと言い出した。
このメンバーが集まって何事もなく過ごせるのだろうか？

珠紀×遼才チです。

a continuous chorus of cicadas

「暑い…」

頭に絡みつく遼の腕を、暑苦しそうに振り払いながら弛れた様子で珠紀が呟いた。

「なんだ、だらしねえな。俺様を見習え！」

なあ拓磨、と、暑さを感じていないかのように得意気な顔を見せている真弘が、珠紀の呟きに反応して元気に応える。クロスワードに夢中になっている拓磨は、真弘の言葉など勿論まともに話など聴いていない。

「…っスね」

と、如何にも適当な生返事を真弘に返しているが、そんな拓磨の適当極まりない返事でも“同意”を得た真弘は、そうだろう、と満足気にウンウンと大きく頷いている。

「真弘は季節感がなさすぎだ」

そんな得意顔でいる真弘は、この夏の暑さ冷めやらぬ夕暮れにも顔色一つ変えずに愛読書を読んで居られる裕一に、季節感が無いと突っ込まれてしまった。

「確かに、真弘先輩は夏も冬も元氣一杯ですね」

裕一の冷静な意見に、納得した慎司がクスリと笑みを漏らしながら相槌を打つ。

裕一の意見に、真弘がどう突っ込み返したら良いのか逡巡している隙に慎司に先を越されてしまった。

「なんだと、慎司。…って、おい！珠紀から離れろっ！」

慎司の言葉に我慢できずに振り返った瞬間に、遼が珠紀に絡み付いて居るのが視界に入り、思わずどっちに言ったのか判らない結果

となっていました。

「この暑いのに、余計暑くなるような事してんじゃねえ！」
さつさと離れる、と遼に捲し立てる。

「てめえの方がよっぽど暑苦しいじゃねえか…」
邪魔された遼は、機嫌わるく舌打ちと共に真弘を睨み付けた。

「俺様と喧嘩しようってのか？良い度胸だ、よし！行けッ、拓磨
！！」

「…っスね」

「お、おゝい…拓磨くん？って聞けよ、人の話をよお！！」
巻き込む形で拓磨を引つ張りだそうとしたが、何やらクロスワードに難問があるらしく相変わらず生返事をしている。難問、といってもまともに答えられたワードなど無いのだが…

「…おい、小さいの。やるのかやらないのか？」

邪魔されて機嫌の悪い遼がニヤニヤと真弘に投げ掛けた。

「小さいの、だと？よし、表に出ろ！俺様が直々に相手になって
やろうじゃねえかっ！」

ぶっ飛ばしてやる、と小さいと言われて本気モードに切り替わった瞬間、またも冷静な裕一の突っ込みが入った。

「もう表に居る」

その裕一の言葉に、歯噛みして頭から湯気を出し始めた真弘は、この怒りの矛先を全て遼にぶつけようと心に決めた。

「まあまあ」と、困った様子で宥める慎司が視界の片隅に入ったが、そんなものは気にもならなかった。

狙いを遼に定め、その的に渾身の力を込めて飛び掛る…その時だった。

「よし！海に行こう！」

響きわたったその声は珠紀の物だった。その言葉に皆が声の主を振り返る。

我ながらいい考えだと言わんばかりに、瞳をキラキラと輝かせながら拳に力を入れた姿の

“我らの玉依姫”の姿があった。

突如言い出した珠紀に、皆が理解出来ずに沈黙が流れた。

飛びかかろうとしていた真弘と、それを返り討ちにしようとしていた遼は、向かい合ったまま固まってしまっている。

裕一は読んでいた“今日のおかず100選”のページをめくる所だった。

「いい考えですね、珠紀先輩！」

その中でただ一人正気を保っていた慎司が珠紀に駆け寄った。

「でしょ？慎司くんもそう思うよね」

「はい！明日から夏休みですし…うわぁ楽しみです！」

西瓜割りでしょ…花火でしょ…と、指折りながら夏休みの予定をキラキラの笑顔で次々と建てていく二人を見て、疎外感を感じた真弘が慌てて会話に入ろうとする。

「おい！俺様抜きで勝手に話を進めんじゃねえ！」

楽しい計画に遅れをとるまいと、遼に向けて繰り出そうとしていた拳を解き放って珠紀の元へと駆け寄った。

蝉の声が燃ゆる様に響きわたる、一学期の最後日。

いつもと変わらぬ、賑やかな帰り道。ただ一つだけ違うのは、明日からは夏休みなのだ。逸る気持ちだが、抑えられない。誰しもがそ

う思うだろう。

少しだけ傾いた陽射しに、地面に映った6人の影が少しだけ伸びてゆく。

a continuous chorus of cicadas (後書き)

これも桜ノ花弁と同様、携帯サイトの方に載せた物を加筆修正しながら載せています。

こちらの作品(と、言うのは大変おこがましい)は、桜ノ花弁とは違い、コミュニティではなく、ブログの方に載せていたものです。

今は消してしまいましたが、記録として残してあったので、この場を借りさせて頂きます。

サブタイトルの“a continuous chorus of cicadas”と言うのは“蝉時雨”です。いつもの様に和で書いても良かったんですが、本タイトルに合わせようかなとw

本タイトルは何故、アレなのか。。。その謎は完結話の後書きでお話できたらな、と思っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1016u/>

The lingering of summer

2011年10月7日19時27分発行